



園だより

文京区立第一幼稚園
令和4年度2月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>



自分らしく表現すること

副園長 工藤 真規子

日本列島が寒気に覆われ、冬本番の寒さが続きます。そんな中でも水仙が明るい春の気配を伝えてくれています。もうすぐ立春です。

年長の劇発表会が明日となりました。第一幼稚園では、年長、年中、年少と一週間ごとに発表会が続きます。幼稚園が、張り切る気持ちと少しの緊張感のワクワクした雰囲気にも包まれています。

年長の劇では、担任は学級の子供の興味に合う題材を提案しますが、そこからは、子供たちが役の動きや言葉(セリフ)を考えて構成していきます。ストーリーや役をよく理解し、同じ役の友達と考えを出し合いながら、劇を創っていきます。その子らしい表現やアイデアを出して、楽しい劇にしようと考え合っている姿を見ると、集団の中で自分を発揮する力が育っていることが感じ取れます。

リハーサルをしてみたらうまく進まないところがあり、大道具や持ち物を手直ししたり動きを整理したりすることもありました。演じた後にビデオ録画を見て振り返りをしたり、皆で話し合ったりして課題に気づき、改善案を出し、ブラッシュアップしてきました。紆余曲折を経て、創り上げてきた劇です。

年中は 動物になって劇遊びをします。桃組はウサギやライオンなどいろいろな動物、黄組はフラミンゴやカラスなど鳥の仲間が出てきます。それぞれに特徴があり、年中児がポーズをつくったり、体を使ったりして表現しやすい題材です。ライオン役の子供たちが「ガオーってほえるよ」「お肉をこうやってかじるの!」、「オウムたちはこうやって(羽ばたいて)飛んでくるんだ!」など、口々に自分のしたい動きをやって見せます。それを、担任が「こうするってことね」と即座に取り入れていきます。言葉では出さなくても、指の先までこだわった表現をしている子供の姿もキャッチします。年中組も、一人一人が「こうしたい」と表現できるようになってきました。それを先生たちが支えたり一緒に楽しんだりしながら構成しています。

年少児の劇遊びは、森のお風呂やさんになった担任と動物役の子供たちとのやりとりで進んでいきます。お風呂に入ってバシャバシャするのが楽しそう!友達と一緒に動いたり集まったりすることが楽しいと思う、年少児の発達に合った構成です。人と関わることを喜ぶ「表現すること」の本質を見る思いがします。

世界情勢の先行きが不透明になり、私たちの生活にも様々な影響を感じるようになりました。これからの社会では、新しいことを創り出す力や、決まった「正解」のないことを考える力、人の考えを聴いて自分の考えを言葉で伝える力はますます大事になっていくことでしょう。

自分らしさを出しながら学級の皆と話し合っ取り組む経験が、未来に生きる力の土台となっていくことと思います。一人一人の頑張る姿や学級の皆と楽しむ姿にあたたかい応援をお願いいたします。